

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス おりーぶせらびー		
○保護者評価実施期間	令和6年10月14日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和6年10月14日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な資格を持っている職員が多く、音楽療法をはじめ、言語療法、理学療法などに力を入れています。	子ども達が専門的な療法を受ける時は「待ってました」とばかりに、意欲的に取り組んでくれる関係性を作っています。「自分だけの特別な楽しい時間」として楽しく参加できる子ども達自身が「今日はどれをやるか」選択出来る環境も作っています。	療法の中でも個別で行う必要があるものと、集団でも受ける事が可能なものがあり、それぞれの良さを生かして取り組んでいます。個別では集中する時間が伸びています。更に集団で行う場合のメリットは大きく、療法を通して、社会性が伸びたり、表情が豊かになる子が増えています。今後も個別・集団の両方で身につけるものを増やしていけるよう取り組んでいきます。
2	子ども達が楽しめる、そして色々なものがいつの間にか身につくイベントを用意しています。	夏祭り、ハロウィン、クリスマス会などの季節の行事をはじめ、理学療法士による集団での運動イベント、実体物とのマッチングが出来る「せらびーカフェ」など、ただ楽しいだけでなく身の回りの学習要素を含んだイベントを企画しています。	イベントも音楽、運動、製作、地域交流、ゲーム、収穫体験など色々な分野にわたっており、ご家庭では体験できないものばかりになっています。今後も色々な内容のイベントを企画し、子ども達に色々な体験を通して経験値を増やし、興味の幅を広げていけるよう支援していきます。
3	レスパイトケアとして、保護者が安心して仕事に行けるよう、そして子ども達が安心してせらびーで過ごせるような環境を整えています。	少しでも気になる事や、傷なども帰りの送迎で出来るだけ詳しく伝えるようにしています。気分が悪い時や疲れた時はすぐ横になって休めるよう布団も一式用意しています。不安定な状態の子や痙攣を起している子どものクールダウンのスペースも用意しています。	子ども達が成長するにつれ、感情の表出などが大きくなったり、思春期を迎えた子は、気持ちが不安定になったりと、今までになかったような問題が出てくると思われますが、職員一人ひとりが子ども達の状況を理解して向き合うスキルを持てるよう研鑽を重ねていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	思春期に入っている利用者への対応が上手く出来ていません。パニックになっている子にうまく対応できていないことが多いと思います。	パニックを起こしている子に対応できるスタッフが少ないうえに、パニックや不安定さを落ち着かせるスキルを持った職員がいません。	心理の専門家にアドバイスや講習を受ける機会を持ちます。職員一人ひとりが子ども達の状況を理解して、向き合えるスキルを身につけていけるよう研鑽を重ねていきます。
2	ペアレントトレーニングなどの家族支援が実施できていません。	ペアレントトレーニングの外部研修にも参加受講しましたが、実施するにはまだ受講を重ねる必要があり、まだ時間がかかります。保護者からの要望があるにもかかわらず、未だ実施できていません。	専門家に助言を求め、ペアレントトレーニングも含めどのような家族支援が出来るのか、改めて検討していきます。
3	物が多く散らかりやすい環境です。本来ならもう少し広く活用できる部屋も十分活用できていません。	収納が無い部屋の構造の上に、物が多く、整理整頓がなされていません。子ども達が使った道具などうまく片付ける事が出来ません。	定期的な片付けたり不要なものを捨てたりする日を設け、一部の職員で行うのではなく職員全員で取り組めるように、役割分担をしていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス おりーぶせらびー		公表日		R7年 1月 8日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		11	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		10	1	利用する子どもの人数に対し、基本的に必要な人員配置は十分できている。	年度替わりで子ども達が不安定になっている時など、子どもの様子次第では職員の人数が少なく感じる日がある。もう少し柔軟に人員を確保する必要がある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		9	2	部屋からトイレに至るまでフラットでバリアフリーになっている。部屋にはクッション性の高いマットを敷いている。入ってはいけない部屋には「×」マークを貼っている。	洗面所がトイレから遠いことが気になる。状況により、近い側の洗面所使用などしない子ども達が混乱しない心配。子どもが容易にアクセスできる場所に物品を収納していることが気になる。掃除がしやすいように物が多いが可能な限り整理整頓していきたい。ST室を設けて個別でやり取りをしている。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		10	1	送迎後に掃除している。毎日のアルコール消毒を実施しており、手洗いの後はペーパータオルを使用している。	今後も継続して、常に清潔で心地よい環境が維持できるよう努めていく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		11		時と場合に応じて使い分けている。ST実施の時は個室を使用している。子どもがリニックになった時にクールダウンしたり、体を休める時などにも使用している。	物が多く、ゆっくりしたスペースをもう少し広くとれるようにしていきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		10	1	適宜職員会議をしている。職員に広く意見を聞いている。	国の色々な制度が改定されていく度、どの職種も業務の負担が増えている。職員の負担ばかりが増え業務改善が一向に進まない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		10		保護者の意見を知る機会があってありがたい。意見を取り入れられる部分は少しずつ取り入れている。	保護者の意向にまだ添えられていないところがあり、実施できるよう努めていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		11		日頃なかなか面と向かって言えない事も、アンケートという形で意見を発信することが出来る。	国の色々な制度が改定されていく度、どの職種も業務の負担が増えている。職員の負担ばかりが増え業務改善が一向に進まない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	4	第三者による外部評価は検討している。	第三者による外部評価はまだ検討段階であり、内部評価にとどまっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		11		外部研修・講習を受講している。年間研修計画に基づいて計画的に職員に研修を実施している。県や市による外部研修にも積極的に参加している。	今後も継続して、内部研修、外部研修を受ける機会を確保し、職員一人一人のスキル向上を図っていく。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		9	1	今年度初めて、職員の思いや意見を取り入れ、皆で支援プログラムを作成している。	今後は支援プログラムの方向性に沿って、日々の支援を実施していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		10		個別支援計画書の更新時に保護者面談を行い、家庭の状況やニーズ把握したうえで計画を作成している。個別支援計画をもとにニーズを把握し専門支援計画を作成している。	今後も継続して、定期的に面談を実施、個々の子どもに必要な支援が出来るよう、適切なアセスメントを行い個別支援計画を立てていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		11		個別支援計画の作成に当たっては、日頃支援に携わっている職員に広く意見を求めて検討し、個別支援計画を作成している。	今後も広く職員に意見を求め、検討を重ねて計画を立てていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		11		職員で定期的に子どもの支援についてカンファレンスを行っている。	今後も計画に沿った支援が出来るように個別支援計画を共有していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		9	1	現在、子どもの適応行動の状況等に関して、特に標準化されたツールなどを使用していない。しかし独自の評価表を作成し、保護者面談の際に、成果が一目でわかるように使用している。	今後、どのようなツールが使っていけるか検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		10		必要な項目に沿って具体的な支援内容の計画を立てている。	今後も「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目が適切に設定され、さらにその上で具体的な支援が設定された個別支援計画を作成できるようにしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9	1	一部の職員が立案している。	一部の職員に大きく負担がかかっている。もう少し職員のチーム力が欲しい。改善の必要性がある

は 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		週によってやるイベントを変えている。訓練士による療法も内容を変えている。色々な分野・季節に沿ったプログラムを用意している。	今後も継続して、活動プログラムが固定しないよう努めていく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11		訓練士による療法も個別又は集団で実施している。個別より集団活動に伸びを見せる子もあり、両方組み合わせる計画と支援は必要。	今後も継続して、個々の子ども状況に応じ、個別と集団を適宜組み合わせた計画作成と支援をしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	個別に「この子にはこの配慮が必要」等の話している。事前打ち合わせの時間がなかなか取れないのでホワイトボードに必要な事を記入している	出勤時間が職員によって違い、送迎に行く必要もあるので一斉に事前打ち合わせするのが難しい
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	ほんの少しでも変化があれば共有している。	勤務時間の関係で支援後の打ち合わせが出来ない。メモ等で情報共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		訓練士による専門的支援をはじめ、日々の支援に対し個々に記録を取っている。	今後も継続して、日々の子ども一人一人の支援の記録を取っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		定期的に保護者との面談を行い、モニタリングを実施、個々の子どもの状況に合わせて個別支援計画の必要な見直しを行っている。	今後も継続して、定期的なモニタリングを行い、必要があれば計画の適切な見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		毎月のお祭りの参加という地域交流も含めて4つの基本活動は、組み合わせさせた支援になっている。	今後も継続して、4つの基本活動を軸に、組み合わせさせた支援を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	2	訓練士による専門的支援の際にも、「どれがしたい？」と聞くなど、子どもの興味に合わせて支援している。	今後も継続して、子ども達に自己決定の機会を与えていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		児発管が参加している	今後は管理者や児発管以外でも、担当する機会が多い児童指導員も参画する機会を作って、職員一人ひとりのスキル向上を図っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		各学校及び市などの関係機関と連携をとる体制はとれている。	今後も継続して、各関係機関と連携をとっていける体制を取っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11		日々学校と連携をとっている。その日の体調なども確認している。	保護者から記入された予定表以外にも、各学校の行事予定表を毎月チェックして、下校時間を間違えないように確認している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11		契約後に保育園在園時に、実際に保育状況を見学に行き、担任の先生から詳しく話を聞くようにしている。	保育園卒園後に小学校入学、新規で放デイに通うには、大きく環境が変わってしまい、本来の姿が分からない場合があるので、出来るだけ色々な機関からの情報共有を図り、受け入れの環境を整え子どもの負担を少しでも少なくしていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		要請があれば情報提供をしている。	今後も要請があれば、放デイでの支援内容の情報を提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10		モニタリングでの連携をはじめ、支援者会議などでも連携を図るようにしている。研修には出来るだけ参加するようにしている。	今後も継続して、連携を図り、助言や研修を受けられる関係性の構築に努めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	4	いろいろ検討はしているものの、いまだ実施には至っていない。	今後は少し視野を広げ、交流対象を広げて検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3	参加出来ていない。	今後は参加を検討していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		日々保護者とは子どもの様子などの情報共有を行い、問題点や課題などの支援の仕方について共通理解を持てるようにしている。	一人ひとり成長するにつれ、状況や課題が日々変化していくので、保護者とはこまめに気づいた事など伝え合えるような関係性を構築していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	4	ペアレントトレーニングの外部研修などを受けているが、実施までに至っていない。	ペアレントトレーニングを行うにはまだ研修受講を重ねる必要があり、時間がかかる。心理の専門家等に助言を求め、改めて検討していく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時に行っている。	支援プログラムは今後説明していく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		個別支援計画書を作成する際、面談を行い、ニーズを確認している。	面談の際に必ず、ご要望を聴くようにしている。今後も子ども達の意思が反映されるような支援が出来るよう心掛けていく。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		同意を得てサインをいただいている。	今後も同意が得られるよう、保護者や本人の意向を尊重した計画作成に努めていく。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		トイレトレーニングなどの相談が多いが、個々の状況や季節などを考慮し、学校とも連携をとりながら助言を行ったり支援をしている。場合によっては面談を行う。	今後も継続して、子どもたちのみならず、ご家族の子育ての悩み等にも寄り添っていただけるような支援者であるよう努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1	コロナ以降保護者や家族対象の行事を企画しても、感染拡大防止のため中止にすることもあった。今期少しづつ一部ではあるが、親子イベントやきょうだい参加の機会を作っている。	今後、保護者同士が交流できるような親子参加型のイベントを企画していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		すぐに管理者・児発管が対応している。	今後も継続して管理者・児発管が速やかに対応にあたり、報告書を作成し、報告・周知・改善を行い、再発防止に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11		毎月せらびーだよりを発行しており、SNSで配信している。個々にはLINEを活用し、必要な情報を発信している。	今後も継続して、お便りやSNSで、必要な情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		動画や写真などを配信する時は、個人が特定されないように画面を加工するなど、個人情報保護に配慮している。	今後も継続して、個人情報の取り扱いについて細心の注意をおこなっていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		子ども達には言葉かけと同時にマカトンなど、日頃学校でも使用している動作を導入し、意思疎通がしやすいように配慮している	今後も言葉や身振りや動作、具体物などを使って意思疎通の配慮を行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	2	毎月、B型作業所が開催しているお祭りに、せらびーも参加し、地域の方々と触れ合う機会を持っている。	今後も地域との交流を持てるような機会を作っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		「安全だより」を発行し、避難訓練の状況や避難場所の説明、送迎車の安全対策などの情報も写真付きで提供している。	今後も色々な災害を想定して、避難訓練の実施と、緊急時のマニュアルの周知を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCP計画は策定しており、水防法における水害に対する避難訓練も行っている。	今後も継続して、災害に備えていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11		契約時に保護者にサポートブックに記入していただいている。	今までの発作状況を聞いて、万が一てんかん発作を起こした時の対応について、事前に保護者と取り決めを行っておく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	1	医師の指示書に基づく対応はしていないが、保護者より聞いている情報の中で対応している。	今後もおやつや食べるものを提供する際にはアレルギーに対して万全な注意を行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		安全計画は作成しており、研修や訓練は行っている。	今後も継続して、安全計画に必要な研修等を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		安全計画に基づく取組内容など「安全だより」で少しずつお知らせしているが、まだ十分ではない。	今後も継続して、「安全だより」等で取組み内容などを周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		ヒヤリハットの事案が発生した場合、必ずヒヤリハット報告書を作成し、回覧している。	今後もヒヤリハットで留まるように、報告書を作成、注意喚起を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		法人内で虐待防止委員会を組織し、各事業所にて研修等を行う機会を作っている。	今後も継続して、研修等の機会を作っていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1	まだ身体拘束を行う機会がないが、今後やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、研修を行い、手続きなどが出来るよう準備している。	今後も継続して備えていく。	